

# 横浜都市農業推進プラン2024-2028素案に対する市民意見募集の結果について

## 1、市民意見募集の概要

	市民向け意見募集	農家向け意見募集
実施期間	令和5年4月24日(月)～令和5年5月31日(水)	
実施方法	<p>○項目： 自由記載</p> <p>○意見提出方法： 概要版パンフレットに添付のハガキ、FAX、電子メール、インターネット回答</p> <p>○概要版パンフレットの配架場所： 各区役所の広報相談係、市民情報センター、農政事務所、環境活動支援センター、農政推進課、寺家ふるさと村四季の家、舞岡ふるさと村虹の家</p>	<p>○項目： 自由記載、重点的に取り組んでほしい分野を選択するアンケート</p> <p>○意見提出方法： 農協の支店への提出、FAX、電子メール、インターネット回答</p> <p>※農協の協力を得て、農協組合員に対しては全戸配布</p>
意見提出数	55通(意見総数91件)	761通(意見総数2,813件)
	合計816通2,904件)	

## 2、寄せられた主なご意見に対する本市の考え方

1、計画全般に関すること	
主なご意見の趣旨	本市の考え方
基本理念、目標ともに支持。ただし取組の柱2は、柱1があつてこそその取組であり、柱1「持続できる都市農業を推進」が確実に達成されることが大前提。これ以上、農家の農業離れが進むのを食い止めるよう、生産振興、農業生産基盤整備支援等を進められることを期待。	ご賛同ありがとうございます。取組の柱1として市内産農畜産物の生産振興、農業生産基盤整備支援についても今後も引き続き取り組んでいきます。いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
何もしないと農地はなくなってしまうと思う。少しでも農地の減少を抑えるためにもしっかりと取り組むべき。	いただいたご意見も踏まえながら、農地の保全についても今後も引き続き取り組んでいきます。
良くできた素案だと思う。より農業が盛んになり、地産地消ができることを期待。	ご賛同ありがとうございます。いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
都市農業の強みは消費地が近いことを活かした地産地消だと思うので、まずその強みを活かすための施策を推進してほしい。逆に都市農業の課題として、住宅地が近いことによる土埃や農薬の飛散等があるので、その課題を軽減するための策を進めてほしい。	地産地消の推進や周辺環境への対応支援についても今後も引き続き取り組んでいきます。いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
子どもの農体験が大切だと考える。横浜の農業を守るためにも、子どもの農体験や小学校の給食についての記載がしっかりされている計画なので賛成。	ご賛同ありがとうございます。いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
地方の農地と違い、取り巻く環境や市場の大きさも違うので地元企業の協力が得られたら良いと思う。また、消費者が近くにいるという大都市ならではの売り方等の工夫ができれば良いと思う。	地産地消に取り組む意欲のある企業等との連携を進めていきます。また、様々な市民ニーズに合わせた取組も推進していきます。
農業の多面的機能を何かしらの数値で表すことができれば意義がわかりやすいと思う。	ご意見のとおり、農業は多面的な機能を有しています。数値での評価についてのご意見は今後の参考にさせていただきます。
行政と農協等が同じ目標を持ち、もっと協力しあってほしい。	引き続き、農協等関係機関と連携して、効果的に施策を進めていきます。
前回のプランでは、取組の柱1が3施策と寂しかったが、今回は5施策と積極的な姿勢が良いと思う。前回の農業振興は、生産振興と基盤整備という異質の2つの取組をひとまとめにしていたのを残念に思っていた。	ご賛同ありがとうございます。柱1については5つの施策により、持続できる都市農業を推進していきます。

横浜市の支援はとても助かっている。これからも継続してほしい。	ご賛同ありがとうございます。いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
農家が安心して農業に取り組めるように、長期的かつ継続的な施策に取り組んでもらいたい。	本プランにて「活力ある都市農業を未来へ」を基本理念として、10年後の横浜の都市農業を展望し、2024年度以降の5か年の施策を実施していきます。
横浜市は農と人が近く、市民に農と触れ合ってもらうことにより、農への理解を深めてもらい、消費へとつなげるのが現実的であろうと思う。提案のとおり柱2の事業も進めてほしい。	ご賛同ありがとうございます。取組の柱2についても今後も引き続き取り組んでいきます。ご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
生業以外の面においての農家の価値への注目してほしい。(防災、文化・歴史、癒し・心のよりどころ、原風景・教育、温暖化防止、生物多様性保全)	ご意見のとおり、農業は多面的な機能を有しています。この多様な機能が十分に発揮されるよう、都市農業の振興に取り組んでいきます。
3つの目標全てで言いたいことは分かるがもっと具体的な取組を示してほしい。	目標を踏まえて、各事業により具体的な取組を推進していきます。また原案には、コラム等により具体的な取組等について、お示しました。
机上の計画だけでは農業は守れないと思う。横浜市内で緑を残す為に農業関係全般に手を差し伸べなければ農家は減ってしまう。	本プランが机上の計画とならないように、実際の事業に取り組んでいきます。

## 2、市内産農畜産物の生産振興

主なご意見の趣旨	本市の考え方
ロボットやICTの様なスマート農業に積極的に取組み、効率的な農業の推進を引き続き取り組んでいってほしい。	農畜産物の高品質化や農作業の省力化等のため、スマート農業の推進にも今後取り組んでいきます。いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
鳥獣による農作物への被害が及ぶ前に対策を支援してほしい。	鳥獣による農作物の被害対策として、防鳥施設や電気柵等の導入への支援を今後も引き続き取り組んでいきます。
周辺の人との軋轢により農業がやりにくくなり(農薬の散布等)農業をやめざるをえない農家が増えている。農家と消費者の橋渡しを行政にお願いし、都市農業が発展するような施策をお願いしたい。	いただいたご意見も踏まえ、より多くの方に都市と農地が共存する横浜の都市農業の魅力伝える取組を進めていきます。また、周囲への農薬飛散を防止する設備の設置等を引き続き支援していきます。
安定した農業経営には、生産技術の普及が必要。	農家の皆様の生産技術向上のために、新品種や新しい栽培方法など生産技術に関する栽培調査・展示、土づくりや病虫害防除など営農情報の農家への発信・提供、各種研修会や農畜産物品評会の開催支援等を行います。
農作業の「安全」について推進プランに記載すべき。農業は建設業等の他産業よりも死亡事故割合が高い産業。	農作業の安全について原案に記載しました。
外国料理に使う新鮮な野菜が日本ではなかなか手に入らないので、それを作っている農家の新鮮な野菜がレストラン等で大人気だという趣旨の記述を見た。	いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。
動物福祉(アニマルウェルフェア)の取組を推進すべき。	いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。

## 3、農業生産基盤支援

主なご意見の趣旨	本市の考え方
横浜の農業を支える上で、基盤整備は何より重要であるので、計画的に進めてほしい。	農業生産基盤整備支援にも今後も引き続き取り組んでいきます。いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
横浜らしい素晴らしい都市農業プランだと思う。生産基盤の整備と支援に関しては農業専用地区の土地改良事業から40年以上が経過し、大雨による耕作地の流土や水はけの悪化などが顕著になりつつあるので、盛土や排水路改修などによる対応を検討する必要がある。	農業生産基盤整備支援にも今後も引き続き取り組んでいきます。ご意見にあります排水路改修等の生産基盤整備につきましては、まとまりのある農地を中心に、施設の重要性や老朽化に応じ、順次支援を進めていきます。

#### 4、多様な担い手に対する支援

主なご意見の趣旨	本市の考え方
新規参入者への支援が多いようだが、後継者にも支援があっても良いと思う。	農業後継者への支援についても、引き続き取り組んでいきます。新規参入者と併せて農業後継者に対して、円滑な営農開始と農業経営の安定化を図るため、設備・資材等の導入を支援していきます。
新規就農者(新規参入、後継者)への研修支援、営農開始後の農業資機材の補助金支援等、以前よりは支援が拡充しているが、新規就農者が安心して農業経営できるよう支援の拡大を望む。	新規就農者の支援について引き続き取り組んでいきます。支援内容の拡充についてのご意見は今後の参考にさせていただきます。いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
横浜市では新規就農希望者への窓口がとても閉鎖的に感じられる。	横浜市の場合、住宅と農地の距離が近く、地域調和の観点が強く求められています。窓口対応では新規就農者の方々が困られる現実的な部分も含めて説明しています。また、HP等とおし、就農制度を案内し、新規就農の推進・支援していきます。
法人の農業参入も含めて、農業を活性化してほしい	いただいたご意見のとおり、個人のみではなく、法人の新規参入なども推進していきます。
農専エリアを生かすためには、既存の農家だけではマンパワー不足。そのために新規参入も致し方ないと思うが、公的支援を受けたにも関わらず数年で離農されてしまうのでは問題なので、しっかりと覚悟をもって農業に取り組むように促してほしい。	新規参入の際には、研修等により必要な技術が身に付いているか等を審査しています。また、新規参入の場合、参入する地域の農業者や周辺住民との調和が非常に重要であり、いち早く地域に溶け込めるよう支援しています。
大規模経営者に対する農業施策を盛り込んでほしい。一方、中小規模農家に対しても目を向けてほしい。	地域の中心的な農業者となる認定農業者への支援について今後も引き続き取り組んでいきます。一方、営農規模を条件としない支援メニューにも取り組んでいきます。
農福連携を推進してほしい。	農福連携の推進にも今後取り組んでいきます。いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
最近、「神戸ネクストファーマー制度」など各地の小規模な農業を支援する制度について、新聞や雑誌で目にした。このような「半農半X」を支援する取組を進めるべき。	いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。
農業で生計を立てるために必要な農業所得や耕作面積など一定の目安を示した上で、目標達成のための支援を行っていくべき。	「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」の中で農業経営の指標を示しておりますが、今後より一層周知を進めます。また、いただいたご意見を今後の参考にさせていただきます。
横浜は少量多品目の生産だけでなく、軟弱野菜や横浜キャベツなどの市場出荷のブランド野菜の産地でもある。こうした産地が今後も継続されるよう、市には農協とも連携して販売促進の支援などに取り組んでもらいたい。	農業振興策や担い手支援策と合わせて、引き続き金融制度や価格安定制度等の農業経営安定対策に取り組んでいきます。

#### 5、農地の保全と利用促進

主なご意見の趣旨	本市の考え方
規模拡大できるように借りられる畑を紹介してほしい。	農地の有効利用を図るために今後も引き続き、農地マッチング制度等により農地の貸し借りの促進に取り組んでいきます。
遊休農地、荒廃農地の防止に向けた解決の方策について盛り込んでほしい。	遊休農地対策にも今後も引き続き取り組んでいきます。いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
「まとまりのある農地」と平行して、生産緑地等の身近にある小さな農地や緑を守ってほしい。	ご意見のとおり、生産緑地地区内の農地の保全等、市街地に残された貴重な農地の保全も推進していきます。

## 6、地域特性を生かした都市農業の推進

主なご意見の趣旨	本市の考え方
旧上瀬谷通信施設の農業振興策の検討と支援について具体的な内容の記載をしてほしい。農とふれあう場づくりだけでなく、もっと積極的に地産地消を推進してほしい。	ご意見のとおり、農業生産基盤の整備や農業振興策について具体的な内容を原案に記載しました。
旧上瀬谷通信施設の農業振興について、横浜の農業・農地がある意義というのは、環境保全への効果など幅広いものであると思う。せっきやく企業や大学と連携するということであれば、SDGsの視点での幅広い社会の課題解決に貢献できるような拠点になるとよいと思う。	ご意見のとおり、SDGsの達成にも貢献する農業の取組の検討を進めます。
地域の特色に合わせた農業推進を展開してほしい。	持続的な地域農業を推進するため、地域の特性を生かした農業振興策を策定していきます。

## 7、農に親しむ取組の推進

主なご意見の趣旨	本市の考え方
水田については水源涵養、生物多様性保護等の多面的な機能があり、保全すべき。水田を水田として維持できるための具体的な施策が重要。	ご意見のとおり、水田の維持管理に対する支援を推進していきます。
まとまりのある農地は散歩していてとても気持ちがいい。美しい農景観を残してほしい。	良好な農景観の保全として、水田景観を保全する取組や意欲ある農家などが農地を維持する取組を今後も引き続き支援していきます。
せっきやくの綺麗な農景観のなかに荒れている農地がある。せっきやくの農景観がもったいないので荒れている農地を改善してもらいたい。	良好な農景観を保全するために、遊休化した農地の復元を支援し、多様な主体による農地の利用促進を図ります。
相続等により農地が虫食い状に資材置き場など変更されている。良好な景観の維持には大きなマイナス。	農地を農地として活用していただけるように、引き続き様々な取組を推進していきます。
農地への不法投棄対策を進めてほしい。	不法投棄対策については良好な農景観の保全として、今後も引き続き取り組んでいきます。いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
身近にイチゴ狩りなどができる農園があると嬉しい。引き続き、進めてほしい。	ご賛同ありがとうございます。ご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
市民農業大学講座等、体験しながら横浜の農業について学ぶことのできる場は貴重。	市民の皆様が農とふれあう場づくりにも、今後も引き続き取り組んでいきます。いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進していきます。
小学校高学年(5～6年生)による農地での野外授業の推進として、小学校の先生と農家のマッチングをお願いしたい。	環境学習農園の開設や利用希望等の相談があった際には、農家と学校の相談に積極的に対応していきます。
市民の方が農を大切に感じてもらえるように心に残る農体験ができるようにしてほしい。	いただいたご意見も踏まえながら、農に親しむ取組の推進を図っていきます。
栽培収穫体験ファームは、有効な施策だと思いが、その数はまだ少なく、内容について横浜市ホームページを見ても詳細が分からない。	いただいたホームページについてのご意見については、今後の参考にさせていただきます。

## 8、地産地消の推進

主なご意見の趣旨	本市の考え方
身近な場所で新鮮な横浜産野菜が買えることを嬉しく思う。もっとたくさんの人に知ってもらえるよう、買える場所や機会が増え、PRも工夫していくと良い。	市内産農畜産物やそれを使った加工品等を購入できる場や機会を充実させる取組を引き続き進めていきます。いただいたご意見も踏まえながら、横浜の農業について今後より一層のPRを推進していきます。
収穫体験農園等を観光資源としてもPRするとよい	ご意見のとおり、収穫体験農園等を観光資源としても捉え、横浜の農をPRしていきます。
マルシェ、青空市なども日中動ける世代向けだと思うので、働いて帰る主婦層や学生向けに駅で横浜野菜が夕方に買えたら非常に魅力的だと思う。	いただいたご意見のとおり、幅広く市内産農産物を購入できる場があることは、大きな魅力と考えています。現在は夕方の時間帯に市内産農産物を購入できる場もございます。
子供時代の共通体験として給食の存在は大きい。地元でとれた食材を給食で食べた体験は、地産地消を維持していく世代を作ることに思う。	学校給食での市内産農産物の一斉供給や料理コンクールの開催など、小学生を対象として市内産農産物に親しんでもらう取組を行っており、引き続き取組を進めていきます。
横浜市内にある直売所への支援、PR活動の取組の強化を望む。	直売所への支援も、今後も引き続き取り組んでいきます。また、地産地消の情報発信等により、PRを推進していきます。
市民が身近に農業を感じる場を作るのは長期的に横浜農業の振興につながる施策だと思い、期待している。	市民の皆様が身近に農を感じるためにも、地産地消の取組を推進していきます。
「はま菜ちゃん」「横浜農場」のロゴマークで横浜の農畜産物が横浜ブランドとして消費者に定着してきている。野菜農家として消費者に「横浜野菜」として届けられていることにやりがいを感じている。	横浜で生産される農畜産物や美しい農景観、それに関わる人々など、横浜らしい農業全体をひとつの農場に見立て「横浜農場」という言葉で表し、今後も都市の魅力としてブランド化を進めていきます。
施策の1つにある市民や企業と連携した地産地消の展開によって、農産物を使った商品が多く生み出され、商品を通じて横浜の野菜はおいしいとたくさんの方に知ってもらえる取組が良いと思った。	ご賛同ありがとうございます。今後も引き続き、市民の皆様や企業等と連携した地産地消の取組を推進していきます。
業種に関係なく、生産者、企業、行政が連携して地産地消の取組を推進すべき。	いただいたご意見を踏まえ、今後も引き続き、市民の皆様や企業等と連携した地産地消の取組を推進していきます。

9、広報・その他

主なご意見の趣旨	本市の考え方
横浜の農業は市民にもあまり知られていない。もっとPRすべき。	いただいたご意見を踏まえ、横浜の農業について今後より一層のPRを推進していきます。
都市型農業のモデルとなり得る、住と農が隣接する恵まれた環境にあると思われる。地産地消がいかにエネルギーの削減になるか(輸送)をPRしたほうがよい。	ご意見のとおり、地産地消は脱炭素にも寄与する取組です。その旨を原案に記載し、地産地消の取組を今後も推進していきます。
市民が農業に触れ合う場や機会を作るだけでなく、市民に対して横浜市内の各地域ごとの農業の特色や歴史、横浜農業、農家の抱える問題などについてもPRしてもらい、市民を巻き込んで都市農業振興につなげてもらいたい。	いただいたご意見を踏まえ、地産地消の取組を推進するとともに横浜の農業についても今後より一層のPRを推進していきます。
内容は良いとして、具体的に農業者に対しての周知徹底が不足していると思う。	積極的・効果的に事業を活用してもらうために施策内容について今後より一層の周知を推進していきます。
肥料等の値段があがっていて経営が厳しくなっているので、支援がほしい。	肥料購入に対する支援については、国・県が中心となって令和4年から令和5年にかけて実施しました。ただし、現在国では今後の肥料に対する支援については、「化学肥料の2割低減に向けた取組」の定着に向けた対策に切り替わりました。横浜市においても、引き続き化学肥料の低減への取組として土壌診断を実施するなど独自の支援を行っていきます。
農業機械の購入は金銭的に問題があるため、レンタルできる仕組みがあるとよい。	いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。
地震等の災害で停電になると水中ポンプが可動せず、水やりができなくなる。そこで災害時の停電でも井戸が機能するような対策を要望する。災害時は電気や水のライフラインの確保が住民にとって非常に問題になるため、井戸が機能すれば水道が止まっても、近隣住民に生活用水として供給できる可能性もある。	いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。
国の税金の問題だが引き続き相続税負担軽減策に取り組みをお願いしたい。	農地の相続税については、相続税納税猶予制度により、負担が軽減されています。本市では、これまでもその適用の拡大を国に要望してきておりますが、いただいたご意見も参考に、今後も取り組んでいきます。
市民の皆さんにもっと農業に関わってもらいたい。	農体験等の農に親しむ取組や地産地消の取組を推進し、市民の皆様が身近に農を感じてもらえるように取り組んでいきます。
農家だけでなく、市民活動団体、環境保全団体等とつながり、それぞれの強みや専門性を活かした総合的な里山保全ができるよう、コーディネート機能が求められる。	いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。
高齢化社会を迎える中で、高齢者等がボランティア等の形で農業を手伝えると良いと思う。	いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。
都市農業の定義が分からない。	いただいたご意見を踏まえ、都市農業の定義を原案に記載しました。
都市農業を実施する時の問題点(作物残渣の病原菌を焼却するために発生する煙、消毒散布の飛散、農業機械の騒音等)について、市民に対して理解してもらうための啓発活動をして欲しい。	いただいたご意見も踏まえ、より多くの方に都市と農地が共存する横浜の都市農業の魅力を伝える取組を進めていきます。
近年問題とされる温暖化や環境悪化、生物多様性の損失の一因に土壌面積の減少がある。農地や緑地の保全につとめてもらいたい。	ご意見の通り、農地は雨水の貯留により洪水防止や生物多様性の保全にも寄与しています。今後も引き続き農地の保全を図っていきます。
農産物販売規模別経営体数の割合、経営耕地面積規模別経営体数の割合等の基礎データを追加したほうが良い。	いただいたご意見も踏まえ、農産物販売規模別経営体数の割合、経営耕地面積規模別経営体数の割合の統計データを原案に記載しました。